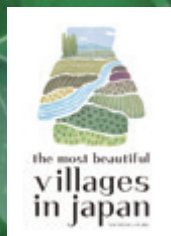


広報⊕
No.727
令和6年

いいたて 9

www.vill.iitate.fukushima.jp





ランチタイムの気さくな交流



現地の地理や歴史を学ぶ特別授業



折り紙やけん玉などを実演で紹介



日本の伝統的な遊びを伝えるプレゼンテーション



シドニーの街並みを望みつつ船で移動



畜産を営む大規模農場を訪問

Australia
オーストラリア

Newcastle
ニューカッスル

Sydney
シドニー

Canberra
キャンベラ

仲間と旅するオーストラリアで グローバルなWAKUWAKU体験！



いいたてっ子
夏の旅

オーストラリアで語学研修！ 8月1日～8日

飯館村語学研修事業 希望の里WAKUWAKU E ツアー

いいたて希望の里学園後期課程の生徒を対象とした語学研修『希望の里WAKUWAKU E ツアー』が、8月1日から6泊8日の日程で実施され、参加を希望した生徒16人がオーストラリアを訪れました。

暮らしや文化にも触れました。3泊4日のホームステイでは、それぞれの家庭で温かな交流を重ね、別れ際にはホストファミリーとハグを交して涙する生徒の姿もありました。学校では、現地の生徒とランチを楽しんだり、英語でのプレゼンテーションを成功させたり。街では、ぎこちなかった買い物やスムーズにできるようになるなど、生徒の成長した姿が随所に表れました。

生徒のレポートには「コミュニケーション能力を高めれば言語が十分でなくても仲良くなれる」「オーストラリアの人はフレンドリーで優しい。他の国の文化を大切にしたいと思った」「英語をもっと話せるようになりたい」「外国の人が困っている時に積極的に助きたい」など、たくさん気づきや思いが書かれていました。体験を通してそれぞれに、かけがえのない学びがあったようです。



風に揺れるキバナコスモス。道の駅に面した県道沿いの花畑にて。

広報いいたて
2024年9月号

目次 CONTENTS

- 02 話題「希望の里WAKUWAKU E ツアー」
- 04 特集「いいたて夏だより」
- 10 ほけんとふくし「長寿番付」
- 12 空から百景「道の駅と花畑」
- 14 いいたて便り
- 16 話題のパレット
- 17 いいたてなりわいREPORT
- 18 村からお知らせ
- 20 いいたてイノサル通信
- 21 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 22 村民広報委員コラム ほか
- 23 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 24 ほっとNEWS／飯館村公式LINE



毎年自宅周りのヒマワリ畑を公開している阿部勝男さんと妻のセツ子さん(佐須)。「今年は種蒔きの後に雨が降らなかったから、発芽がよくギッシリと咲いたね」と満開のヒマワリに目を細めました。「楽しみにしてくれている人がいるから」と周囲の草刈りも欠かしません。

村はイベントや取り組み取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。

山の向こうから鉄を打つ音が聞こえる

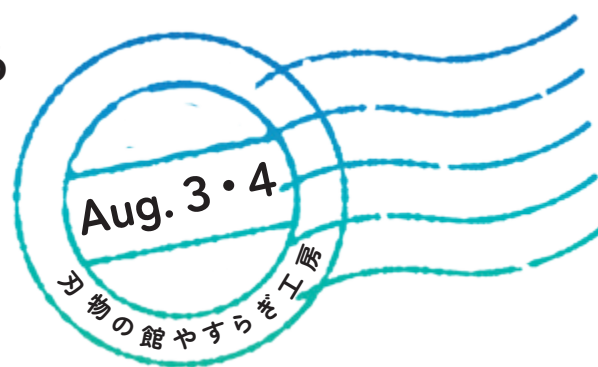
株式会社二瓶刃物（刃物の館やすらぎ工房）が、古代から伝わる技法を再現しながら鍛冶仕事の魅力を伝えるイベント「山の向こうから鉄を打つ音が聞こえる」を、7月から11月にかけて断続的に開催しています。8月3日・4日のイベントでは、古代の炉を復元して鉄をつくり、その鉄から蕨手刀（わらびてとう）を製作するという挑戦を公開しました。代表の二瓶貴大さん（大倉）は「1200年前の飯館を舞台に、当時の鍛冶屋の仕事を再現し、この地に根ざす歴史や誇りを、村の人達と共有したい」と思いを込めます。父で親方の信男さん、刀鍛冶の師・藤安将平刀匠も、この挑戦を全面的に支えています。

また、鍛冶仕事や鉄に親しむワークショップ、村内事業者が特製メニューを提供する飲食ブースも設けられ、来場者がゆったりと楽しんでいました。

次回は9月15日の午前10時から、交流センター「ふれ愛館」で、藤安刀匠を講師に、復元炉とつくられた鉄について振り返る講演会が開かれます。〈要事前予約☎0244-42-0333（二瓶刃物）※FAXも同じ〉

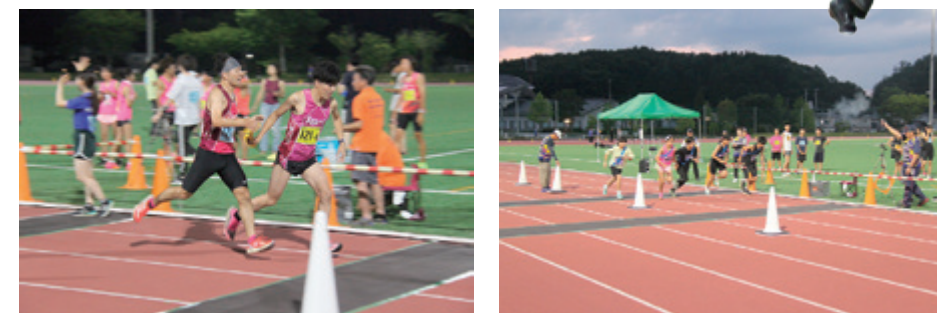


上は砂鉄スライムをつくるワークショップの様子と、復元炉から取り出された鉄のかたまり。下の写真は炎を上げる復元炉、鍛錬、日没後に行われた焼き入れの場面。



いいたてナイター駅伝

夕暮れ時に開会する「いいたてナイター駅伝」。第3回の開催です。小学生の部（1km×4区）に13チーム、中学生の部（2km×4区）に6チーム、フリーの部（3km×4区）に27チームがエントリー。陸上競技場をスタート・ゴールに、公園内の周回コースで選手がタスキをつなぎました。また、東京大学運動会応援部が来場し選手に熱いエールを送りました。



開会式は午後5時から。式の後には尾田寛幸さん（元実業団ランナー）を講師にランニング教室も行われました。レースでは、さまざまなグループが声援を送り合って、夏の夜の駅伝を楽しんでいました。

暑い暑い夏でしたが、8月の飯館村は、ユニークで特別なイベントが目白押しでした。どのイベントも、飯館村の持ち味を生かし、あるいは飯館村や村民に思いを寄せて開かれた、素敵な企画ばかりです。ワクワクのときめきと共に、村主催のもの、民間主催のもの、マルっとまとめて紹介します。

いいたて夏だより



ごきげん対談コンサート & ごきげんマルシェ

声楽×発達心理学×マルシェで“ごきげんの輪”を広げよう！
というユニークなイベントが、「ごきげんソサエティー」の主催
で開かれました。発達心理学者・今岡多恵さんと声楽家・馬場由
香さんによる対談と、声楽家の皆さんが美しい歌声を響かせる
コンサート一つのステージに。さらには村内外の逸品を集めた
マルシェも楽しめる、正にごきげん尽くしのイベントです。

主催の1人で声楽家の深沼慶さんは、多くの人の来場とス
タッフの協力に感謝し、「飯館村から、そして福島から、元気の底
上げ(=ごきげん)を盛り立てていきたい」と笑顔を見せました。



マルシェにもごきげんな笑顔があふれていました。



いいたて夏まつり

道の駅のイベント広場で、恒例の『いいたて夏まつり』が
開催されました。飯館村商工会が企画・運営を行う村主催
のイベントです。福島もも娘（P15に紹介記事）、姉妹デュオ
「COLOR★RIOT」、いいたてフラクラブ、コンフルエンシア・
ジュニアなどの華やかなステージ、さまざまな事業所の出
店、大抽選会やじゃんけん大会などで盛り上がりしました。



コンフルエンシア・ジュニア
(コスキンダンス／川俣町)



子どもじゃんけん大会
(杉岡村長と！)



福島もも娘



いいたてフラクラブ



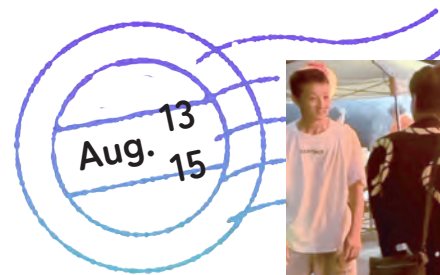
ドローン体験
(菊池製作所)



森林経営ボードゲーム
(森林組合)



COLOR★RIOT



二枚橋



飯樋町

盆踊り・夏まつり

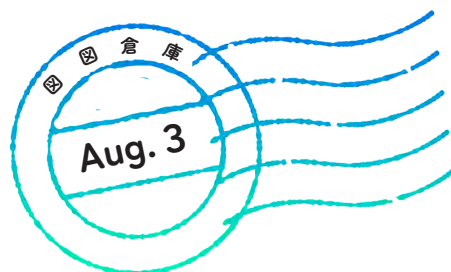
13日に二枚橋地区、15日に飯樋町地区で、盆踊りが行われました。地域の皆さんが工夫を凝らした手作りの祭りに家族が集い、ふるさとの夏を楽しみました。(11日に予定されていた草野地区の夏まつりは残念ながら荒天により中止となりました)

ふくしま再生の会総合展示 解説ツアー



図図倉庫を運営する合同会社MARBLINGの代表で展示の制作に携わった矢野淳さんが解説を担当。展示は、宇宙の誕生にまで遡り、「環境世界」の一部として放射線の成り立ちを表現しています。飯館村の歴史や自然を表す展示もあり、今後は常設で観覧することができます。

村内外のボランティアが地域の再生に取り組む認定NPO法人ふくしま再生の会の総合展示が、複合施設「図図倉庫」内に完成し、8月3日に解説ツアーが開催されました。当日は、展示の総指揮を担当したアートディレクターの北川フラムさんも来場。関心を寄せる多くの人が参加して、解説に耳を傾け展示を巡りました。



サクラ・シスターズがイベントを開催

チンドンバンド練り歩き

台湾との交流を通じて飯館村や福島県の魅力を発信している株式会社サクラ・シスターズが、道の駅にてイベントを開催しました。イベントは色とりどりの内容で、まずはチンドンバンド「町田出港バンド」が練り歩き。イベント広場の特設ステージでは福島もも娘が歌とダンスを披露しイタネちゃんとも交流しました。他にもフラダンスのステージや星空観察など、1日をかけて来場者を楽しませました。



細川牧場が協力して設けられた「動物ふれあいコーナー」では、ポニーやヤギとの触れ合い体験や、乗馬体験などが行われました。



第4回2024スーパーカーフェスティバル in までい館

開会前から入口に多くの人々が立ちスーパーカーの入場を待つなど会場は熱気に包まれました。世界的に有名なランボルギーニオーナーの諸星伸一さんも参加し、会場いっぱいに約50台のスーパーカーが並んだ他、クラシックカーなども展示されました。

主催は長谷川芳博さん(伊丹沢)が代表を務める「Village Future Group」。時折雨が降る天候にもかかわらず、県内外から大勢のスーパーカーファンが来場し、鳴り響くエンジンサウンドなどを楽しんでいました。また、「動物ふれあいコーナー」やキッチンカーの出店、スーパーカーグッズの販売などもあり、人気を集めました。





ご長寿を祝して

令和6年度 長寿番付

91歳以上の方の長寿番付の発表です！この番付の年齢は、起算日となっている令和6年4月1日現在のものです。また、お名前は敬称略で行政区順に掲載しています。なお、9月8日開催の『令和6年飯舘村敬老会』については75歳以上の方に招待状をお送りしています。敬老会の様子は広報いいたて10月号でお伝えします。

103歳	女性	坂本チヨ	伊丹沢
103歳	女性	荒 二三子	飯樋町
102歳	女性	田村マツヨ	伊丹沢
102歳	女性	馬場保子	臼石
101歳	男性	今野義實	前田・八和木
100歳	女性	佐藤オイシ	伊丹沢
100歳	女性	佐藤ハルヨ	前田
99歳	女性	横田フミエ	草野
99歳	女性	齊藤マツヨ	深谷
99歳	女性	佐藤フミヨ	伊丹沢
99歳	男性	斉藤光一	八木沢・芦原
99歳	男性	中川廣男	宮内
99歳	女性	五百川ミツ子	蕨平
98歳	女性	堀井リン	草野
98歳	女性	横山キクヨ	草野
98歳	女性	庄司ヤイ子	伊丹沢
98歳	女性	高倉アイ子	伊丹沢
98歳	女性	小林ハル子	小宮
98歳	女性	佐藤ヨシノ	八木沢・芦原
97歳	女性	花井ハルノ	伊丹沢
97歳	女性	菅野アサ	伊丹沢
97歳	女性	菅野ウメノ	伊丹沢
97歳	女性	高橋キヨ子	小宮
97歳	女性	長谷川トメノ	宮内
97歳	男性	北山安信	飯樋町
97歳	男性	大谷八郎	上飯樋
97歳	女性	菅野千代子	比曽
97歳	女性	杉上キイ	蕨平
97歳	女性	半沢キクヨ	臼石
96歳	女性	高橋ヤヨイ	草野
96歳	女性	渡邊きみ子	小宮
96歳	男性	志賀正二	小宮
96歳	女性	大内テルイ	佐須
96歳	女性	佐藤昭子	上飯樋
95歳	女性	木幡トヨノ	伊丹沢
95歳	女性	長谷川 キミノ	伊丹沢
95歳	女性	伊藤八重子	伊丹沢
95歳	女性	高橋保子	小宮
95歳	女性	大久保仲枝	宮内
95歳	女性	北山ミツ子	飯樋町

95歳	女性	赤石澤イハ枝	飯樋町
95歳	男性	久保内亨	大久保・外内
95歳	女性	村上エイ子	上飯樋
94歳	女性	椋沢秋子	草野
94歳	女性	但野カネ	草野
94歳	女性	市澤ナヲ子	深谷
94歳	女性	庄司ミイ子	伊丹沢
94歳	女性	高野トシヨ	伊丹沢
94歳	女性	菅野重子	伊丹沢
94歳	女性	末永ケサ	伊丹沢
94歳	女性	庄司ハナノ	小宮
94歳	女性	佐藤ユキイ	大倉
94歳	女性	郡 玲子	大倉
94歳	女性	北山フヨノ	飯樋町
94歳	女性	荒 コフ	飯樋町
94歳	男性	佐藤利雄	前田・八和木
94歳	女性	高橋チイ	上飯樋
94歳	女性	藤井喜江	上飯樋
94歳	男性	菅野武治郎	比曽
94歳	女性	鳴原ワカ子	長泥
94歳	男性	佐藤正清	関根・松塚
93歳	女性	横山アキ子	草野
93歳	女性	菅野ツメヨ	伊丹沢
93歳	女性	山田トシ子	伊丹沢
93歳	女性	高橋圭子	伊丹沢
93歳	女性	長谷川智恵子	伊丹沢
93歳	女性	星 ミサヨ	伊丹沢
93歳	女性	山田ヨシコ	伊丹沢
93歳	女性	星 富枝	伊丹沢
93歳	女性	田村スズエ	伊丹沢
93歳	女性	伊東キヨ	関沢
93歳	男性	小林利雄	関沢
93歳	女性	酒井マサ子	小宮
93歳	女性	清野スキノ	小宮
93歳	女性	半澤ミヤ子	八木沢・芦原
93歳	男性	大内清忠	佐須
93歳	男性	佐々木謹一	佐須
93歳	女性	赤石澤秀子	飯樋町
93歳	男性	小林信一	前田・八和木
93歳	女性	小林トヨ子	前田・八和木

93歳	女性	渡邊ハルミ	前田・八和木
93歳	女性	久保内スミ子	大久保・外内
93歳	女性	高橋トキ子	上飯樋
93歳	女性	桑折トシイ	上飯樋
93歳	男性	菅野 安	比曽
93歳	女性	菅野フクノ	比曽
93歳	男性	高橋與吉	長泥
93歳	女性	菅野ヨシ	長泥
93歳	男性	齋藤 隆	蕨平
93歳	女性	佐藤カヨノ	二枚橋・須萱
92歳	男性	中野幸夫	草野
92歳	女性	松下フジイ	草野
92歳	男性	渡部清長	草野
92歳	女性	末永キク子	深谷
92歳	女性	庄司登美子	伊丹沢
92歳	女性	佐藤敏子	伊丹沢
92歳	女性	西川ハツ子	伊丹沢
92歳	女性	高橋イミ子	伊丹沢
92歳	女性	原田ミツヨ	伊丹沢
92歳	女性	新谷トメコ	伊丹沢
92歳	女性	佐藤シヅエ	伊丹沢
92歳	男性	菅野吉雄	小宮
92歳	女性	小山田廣子	小宮
92歳	女性	森 京子	八木沢・芦原
92歳	男性	中井田忠	大倉
92歳	女性	阿部ヤス子	佐須
92歳	女性	横山ヨシ子	前田・八和木
92歳	女性	菅野ウメ	前田・八和木
92歳	女性	佐藤仲子	前田・八和木
92歳	女性	高橋スエ	上飯樋
92歳	男性	細川太壽	上飯樋
92歳	女性	佐藤ユキ	上飯樋
92歳	女性	中島美子	比曽
92歳	男性	須藤浪男	比曽
92歳	女性	須藤トヤノ	比曽
92歳	男性	菅野百二	比曽
92歳	女性	菅野マツ	比曽
92歳	女性	菅野カネヨ	長泥
92歳	女性	今野トクエ	蕨平
92歳	女性	今福ミツ井	臼石

92歳	男性	長谷川利治	前田
91歳	男性	坂本 仁	草野
91歳	女性	青田ツヤ子	草野
91歳	女性	青山アイ子	草野
91歳	男性	井上家治	深谷
91歳	女性	齋藤美代子	深谷
91歳	男性	原田重吉	深谷
91歳	女性	齋藤益枝	伊丹沢
91歳	女性	菅野キミ子	伊丹沢
91歳	女性	高橋安子	伊丹沢
91歳	男性	井上義廣	関沢
91歳	女性	小林マサ子	関沢
91歳	女性	三輪榮子	関沢
91歳	女性	高橋トシ	小宮
91歳	女性	菅野キミヨ	小宮
91歳	女性	高野智偉子	大倉
91歳	女性	阿部泰子	佐須
91歳	女性	阿部シゲノ	宮内
91歳	女性	中川あい子	宮内
91歳	女性	西川ツネ子	宮内
91歳	女性	石井ハナ	飯樋町
91歳	女性	渡邊幸子	飯樋町
91歳	男性	菅野重光	飯樋町
91歳	女性	赤石澤ハルノ	前田・八和木
91歳	女性	遠藤弘子	前田・八和木
91歳	男性	菅野要治	前田・八和木
91歳	女性	長正ハツノ	大久保・外内
91歳	女性	志賀タケ子	上飯樋
91歳	女性	細川ハツミ	上飯樋
91歳	男性	大澤一穂	上飯樋
91歳	女性	大谷タニ子	上飯樋
91歳	女性	菅野タカ	長泥
91歳	女性	五百川晴子	蕨平
91歳	男性	圓谷儀一	蕨平
91歳	男性	佐藤 萬	臼石
91歳	男性	山岸登喜男	臼石
91歳	女性	浦住叔子	前田
91歳	女性	佐藤一子	二枚橋・須萱



8月も半ばを過ぎた早朝。「いいたて村の道の駅までい館」前に広がる花畑はしっかりと朝露をまとっていました。手前の右側に広がる緑はぎっしり育ったヒマワリ畑。左側はやさしく風に揺れるキバナコスモスの群生です。管理を請け負う飯館村振興公社が欠かさず手入れし、この見事な景色をつくり出しました。日中は遠方からも多くの人を訪れて、散策や写真撮影を楽しんでいました。



(左から)アイゴさん、ファーフアさん、杉岡村長、ルーシーさん、ペイペイさん。もも娘の桃のポーズで。

福島もも娘の皆さんが 杉岡村長を表敬訪問

7月31日、『福島もも娘』が表敬訪問のために来庁しました。『福島もも娘』は、飯舘村で起業し台湾との交流事業を手がける株式会社サクラ・シスターズ（伊丹沢）の峯岸ちひろ代表がプロデュースしたアイドルグループです。表敬訪問では杉岡村長が、村の気候や農業の特徴を説明。4人のメンバーは、台湾との違いに興味津々な様子で、「飯舘村は涼しくて自然がきれいな場所」「福島で一番おいしいと感じたのは“桃”」など、活動を通して感じた飯舘村や福島県の魅力を語っていました。

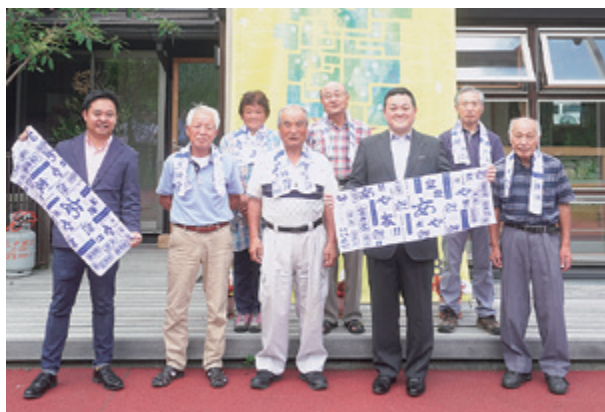
CRSスポーツ工業株式会社と 協力協定を締結

7月26日、村とCRSスポーツ工業株式会社が協力協定を締結しました。本協定は、村内に工場を構えるCRSスポーツ工業株式会社が村民の積極的な雇用に努め地域発展に寄与すること、スポーツを通じた交流を推進することなど、相互の連携・協力を深める内容になっています。

締結式の中で、同社の佐藤充社長は、「飯舘村に進出する際、早急に対応していただいたことで今がある。スポーツの振興などを通じて、村の役に立てよう協力関係をつくっていききたい」と語りました。



締結式は村役場で執り行いました。署名した協定書を手に(右から)杉岡村長、佐藤充社長、高橋副村長。



地元の情報に精通した6人がサポーターに任命されました。サポーターは順次増員される予定です。

空き家・空き地バンクサポーター 6人が任命され出発式を開催

8月1日、いいたて移住サポートセンター「3ど」で、『いいたて村空き家・空き地バンクサポーター出発式』が行われました。空き家・空き地バンクサポーターに任命された村民の皆さんには、物件情報を収集し、空き家・空き地バンクの登録増加、住宅不足の解消にお力添えをいただきます。式では、サポーターを代表し渡邊守男さん(小宮)が「移住者の呼び込みにつながるよう力を合わせて取り組みたい」とあいさつ。また、杉岡村長は、「架け橋となつていただけることがありがたい」と述べ感謝と期待を伝えました。

飯舘村子育て支援センター 開放日に楽しい夏まつり企画

毎月開放日を設けてご利用をいただいている「飯舘村子育て支援センター」(旧やまゆり保育所)が、7月27日・28日の開放日に、夏まつり企画を実施しました。当日は、スーパーボールすくいや、水ヨーヨーつりなど、縁日風の遊び場が設けられた他、かき氷を自分で作り好きなシロップで味わう体験コーナーも。

リピーターの方が友達を誘って訪れ、これらの企画を楽しむ姿もありました。28日には移住検討者向けモニターツアー「ミチシル旅」の参加者が立ち寄り、村に住む親子との交流を楽しんでいました。



カラフルな水ヨーヨーが涼しげですね。スタッフ手作りの釣り竿を手に、子ども達が夢中で遊んでいました。



今年は団体ごとに担当箇所を分担。長い距離を歩きながら丁寧にゴミを拾い、清掃活動を行いました。

身近な社会資本・道路を大切に！ 「道の日」に道路の清掃活動

国土交通省が設ける「道路ふれあい月間」と8月10日の「道の日」に合わせ、相双建設事務所、道路事業の関連会社、村の関連部署などが参加して、毎年、道路清掃奉仕作業を行っています。

今年の清掃活動は、8月9日に、県道原町川保線を中心に実施しました。交流センター「ふれ愛館」駐車場で出発式を行い、「お盆に帰省する人や旅行で訪れる人をきれいな道路でお迎えしよう」「身近な社会資本である道路の意味や重要性を見つめ直して取り組みましょう」と申し合わせ、作業を開始しました。

村長杯パークゴルフ大会 元気なプレーが盛りだくさん！

7月28日、いいたてパークゴルフ場にて、『第3回飯舘村長杯パークゴルフ大会』が開催され、44人の選手が熱戦を繰り広げました。

大会の結果は以下のとおりです。

【男性の部】優勝・高橋則雄さん(二枚橋・須萱)、準優勝・佐藤義彦さん(二枚橋・須萱)、3位・高野孝一さん(前田・八和木)

【女性の部】優勝・北原澄子さん(宮内)、準優勝・高橋ヤス子さん(二枚橋・須萱)、3位・佐藤千代美さん(学童保育指導員)



杉岡村長を囲んで記念撮影。熱戦が続く競技の間も、選手同士が声を掛け合い、交流を楽しんでいました。

集約型農業の担い手として、広大な農地の再生に挑む
一般財団法人飯館村振興公社（農業部門）

大井利裕さん（草野）が部長を務める飯館村振興公社の農業部門は、集約した農地の担い手として農業に取り組み、休耕地の営農再開も進めています。今年は、飼料用米などの生産を中心に、道の駅までい館前の花畑の管理も行っています。

飯館村振興公社は、産業の活性化などを目的に、昭和63年、JAや飯館村商工会などが資金を出し合い設立した機関です。震災前は、飯館村畜産技術センターで、肉用牛生産の実証事業や生産技術の普及指導に力を注ぎ、飯館牛ブランドの確立普及に努めていました。また、さまざまな村おこし事業を支え、村営書店「ほんの森いいたて」（現在は閉店）の運営管理なども務めていました。



休耕地が息を吹き返し、里山の風景を取り戻しています。写真は深谷地区。



花畑で作業をしていた新人の齊藤和哉さん（深谷）。「やりがいのある仕事です」



しかし、震災と原発事故による全村避難で、それら全ての業務が中断。避難の期間は、国の除染作業の一部を受託し、原発災害にも向き合いました。

その後、避難指示解除に伴い再開した宿泊体験館きこりなどを含む「村民の森あいの沢」の指定管理業務を受託。現在は、土木部門と農業部門を置いて、新たな村づくりにも力を尽くしています。

「長期にわたり休耕していた農地を田に戻す作業は、手をかけなければできません」と大井さん。営農面積を拡大しながら、今年は村内各地の約30haで営農。農繁期には、

パート契約や作業委託で、農業者を雇用し作業を進めています。

水田の水管理を担当している新谷晃弘さん（伊丹沢）は、「地元の人にも相談しながら作業ができています」と手応えを話します。大井さんは「農業では特に、互いを理解し協力して作業することが大事」とチームワークを大切にしています。

飯館村振興公社は常に、地域振興の最前線で挑戦を続けてきました。水田を有効活用して生産する飼料で和牛農家を支え、また、事業を通じて新たな担い手も育成していきます。

飯館村振興公社
飯館村草野字大師堂113-1
☎ 0244-42-0465

飯館村振興公社の農業部門では、企業雇用型地域おこし協力隊を募集しています。（協力隊応募の詳細については「いいたて移住サポートセンター「3ど」」☎0244-68-2850まで）

振興公社の事務所は旧草野小学校の校舎内にあります。職員の皆さんが次々に現場から戻って来る夕刻、敷地内に並ぶ大型車両の前で。

村民の森あいの沢にて「永井川カフェ」

「ゆかいなしあわせカフェ永井川」では、毎月さまざまな内容で交流会を企画し開催しています。

8月7日の「移動カフェ」では、13人の参加者が「村民の森あいの沢」を訪れました。同所は今年7月に「農業研修館きりり」が開所するなど、再整備が進められています。一行は散策を兼ねて視察を行い、昼食はエリア内の施設、民家園にて流しそうめん。にぎやかに会話も弾んで、楽しいひとときを過ごしました。



農×デザイン塾2024@図図倉庫

8月5日から5日間、図図倉庫を運営する合同会社MARBLiNGが、学生・院生を対象に『農×デザイン塾』を開催。11人の参加者が村内ツアーで学びを深め、「農」をテーマに商品開発や販売手法の考案に取り組みました。活動は、9月28日・29日に双葉町を中心に開催される「HAMADOORI CIRCLE 2024」の出展に向けて継続します。参加者の一人、坂田真紀さんは、「密度の高い活動ができました。村の方のお話を聞き、高齢の方からも生命力やエネルギーを感じました。風景は至る所がきれいで、そこにも人の力をを感じました」と話していました。



東京藝術大学の大学院で学ぶ坂田さん

「健やか会」が交流イベントを開催

7月30日、「健やかに暮らせるいいたての会」が、村の学童保育と川俣ジュニアボランティア、復興公営住宅壁沢団地（川俣町）の入居者を招き交流会を開催しました。飯館村と川俣町、双方の社会福祉協議会が協力しました。交流センター「ふれ愛館」では、酒百宏一さんによる「までい花プロジェクト」のワークショップ。村で採集された木の葉を色鉛筆で写し取り「までい花」の製作を楽しみました。また、昼食は「村民の森あいの沢」で流しそうめんを味わいました。



映画「生きて、生きて、生きろ。」を上映

8月12日、映画「生きて、生きて、生きろ。」の自主上映会が実行委員会の主催で開催されました。会場の図図倉庫には村内外から約50人が集まりました。

この映画は、震災から13年が経過する福島で遅発性PTSD（心的外傷後ストレス障害）にお苦しむ人々と、共に生きる医療従事者たちを記録したドキュメンタリー。上映後、映画に登場する医療従事者の1人、米倉一磨さんと杉岡村長が対談し、映画に重ねてそれぞれの被災体験を振り返りました。



おいしい給食たくさん食べてね

学校給食の調理業務体制が変わりました

村は、8月1日から、いいたて希望の里学園とまでの里のこども園(3歳以上児)の給食調理を、株式会社ニッコトラスト東日本・北海道支社に委託することとしました。

学校の栄養教諭・高木晴子先生が引き続き献立を立て、学校内の給食室で調理されることには変更ありませんので、これまでと同様に、温かくおいしい給食が提供されます。

2学期がスタートして間もない8月23日の給食の時間。主食のきつねうどんや夏野菜の副菜を、児童・生徒がおいしそうに味わっていました。



今日も給食が、とてもおいしい!

中川廣男さん(宮内)百歳賀寿

中川廣男さんの百歳賀寿は、8月20日の誕生日に合わせて中川さんの自宅で行われ、県や村、社会福祉協議会などが褒状(ほうじょう)や記念品を贈り、長寿をお祝いました。

中川さんは大正13年生まれ。大戦時に警備兵として徴兵された経験があります。復員後は、米、葉タバコなどさまざまな農作物や、木炭の生産に携わりました。また、手先が器用なことから、わら細工を製作したり、物置小屋を建てたりして、暮らしを楽しんできたそうです。



出席者の記念撮影。村民で100歳を迎えた方は、中川さんが46人目。現在100歳以上の村民は、中川さんを含め9人いらっしゃいます。

8月の村の動きと主なできごと

- 1日・いいたて村空き家・空き地バンクサポーター出発式(いいたて移住サポートセンター「3ど」)
- 1〜8日・語学研修 希望の里WAKUWAKU Eツアー(オーストラリア)
- 3日・いいたてナイター駅伝(いいたてスポーツ公園)
- 4日・第45回福島県消防操法相馬地方大会 飯館村消防団出場(新地町・新地町民総合運動場)
- 5日・福島ユナイテッドFCカップ(いいたてスポーツ公園)
- 7日・第2回行政区長会議(交流センター「ふれ愛館」)
- 7〜9日・ゆずカフェ(いちばん館)
- 9日・道路ふれあい月間道路清掃奉仕作業(交流センター「ふれ愛館」/県道原町川俣線)
- 11日・いいたて夏まつり(いいたて村の道の駅までい館)
- 16日・わくわく推進協議会(福島市)
- 20日・中川廣男さん 百歳賀寿(宮内地区)
- ・農業委員会定例総会(村役場)
- 24日・語学研修 希望の里WAKUWAKU Eツアー事後研修(交流センター「ふれ愛館」)
- ・第1回飯館村二十歳の成人式実行委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 24〜25日・はじめてのミチシル旅(村内各所)
- 25日・関沢/深谷/前田・八和木行政区懇談会(各集会所)
- 27日・定例教育委員会(福島市・県青少年会館)
- ・いいたて村文化祭第3回実行委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 29日・固定資産評価審査委員会(村役場)
- 30日・派遣自治体訪問(東京都台東区/足立区)
- 30日〜9月13日・9月議会定例会(議場)

消防操法相馬地方大会

8月4日、新地町民総合運動場において、福島県消防協会相馬支部主催の『第45回福島県消防操法相馬地方大会』が開催されました。大会は、消防団員の消防操法の基礎を培うことや火災防御体制の強化などを目的に開催されています。飯館村消防団は、指揮者に青山正則部長(草野)、1番員に庄司守団員(草野)、2番員に高橋孝文団員(小宮)、3番員に北原経博部長(宮内)、補充員に山田佳史団員(伊丹沢)のチームで、小型ポンプ操法の部に出場しました。



選手は貴重な休日に練習を重ねて出場しました。会場には選手の家族も応援に駆け付けました。

相馬地方防火安全協会表彰

株式会社JAふくしま未来サービス飯館給油所が、相馬地方防火安全協会表彰(事業所表彰)を受けました。この表彰は、消防法に定められる技術基準に適合し、その維持管理が優秀で、過去10年以上無火災・無事故に努力し、他の模範と認められる事業所に贈られています。同給油所は、昭和53年に同協会飯館支部に入会し、45年間にわたり無火災・事故防止に努めた功績が認められました。



7月26日、横山義幸南相馬消防署飯館分署長(右)が同給油所を訪問し、表彰状を伝達しました。



デジタルアーカイブ

第1回村民体育大会は、昭和38年8月・9月に開催されました。昭和31年に飯館村と大館村が合併して飯館村が誕生して7年。東京オリンピック初開催の前年にもあたります。初めての村民体育大会は、飯館方部と草野方部、2方部に分かれての開催でした。

第1回大会については、昭和38年9月15日発行の「飯館村公民館館報」に記事が掲載されています。「飯館方部大運動会」は飯館小学校・中学校の校庭や体育館を使って開催され、小学校会場には約1000人が集まったと書かれています。「草野方部村民体育大会」は、館報発行後の開催だったために、告知記事のみが掲載されています。

翌年の第2回大会からは

統一され、全行政区対抗の「村民体育大会」が実施されています。以降は村民総出の恒例イベントとなりました。

年代を問わず楽しめるアイデア競技あり、本気モードの陸上競技あり、熱気あふれる球技あり。多くの村民が、行政区の誇りをかけ、一方では笑いと感じ動に包まれて、年に一度の大会を楽しんでいました。

子どもはもちろん大人も童心に返って競技を楽しむ様子は、飯館村デジタルアーカイブの写真で振り返ることができます。（※村民体育大会で検索）

また、全村避難で途切れた村民体育大会の復活開催を望む声は止まず、今年、村民スポーツ大会として9月16日にパークゴルフ大会が開催されます。



平成20年の第45回大会。大きな長靴をはいて本気のダッシュ。応援席では行政区の旗がひるがえります。



第1回・草野方部村民体育大会の「自転車“遅乗り”競争」。観客も盛り上がりそうなユニークな競技です。

おすすめ図書

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。



ばあばは、だいじょうぶ
楠章子 作
いしいつとむ 絵
童心社

孫のつばさはばあばが大好き。ばあばに「だいじょうぶだよ」って言ってもらえるとすごく安心する。そんなばあばは忘れてしまう病気なんだって。ばあばが別人のようになって怖くなっちゃったけど…ばあばを想う優しい気持ちに胸が熱くなる物語。



オレンジ・ランプ
山国秀幸 作
幻冬舎

主人公の男性は39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断されました。しかし、認知症になったからといって人生が終わる訳ではないことを、この本は教えてくれます。ある家族の、認知症と共に生きる実話を元にした感動の物語。

9月21日は世界アルツハイマーデーです。交流センターでは、認知症に関する本を掲示してありますのでぜひ手に取って読んでみてください。

シカとカモシカ ～似ているようで結構違う～

最近、住民の方から、何度か村内でカモシカを見たという話を聞きました。また、シカも村内にある調査用の自動撮影カメラに写っていたことがあります。シカとカモシカは、名前や見た目が似ていますから、混同されやすいかもしれません。そこで、今回はシカとカモシカの違いを紹介します。



村内で撮影されたシカ
(2023年6月)

【シカ】

正式にはニホンジカといいます。シカ科に属しており、ツノがあるのはオスだけで、毎年春頃にツノが抜けて、生え変わります。2歳以上ではツノは枝分かれしています。また、夏の間は体に白い斑点の模様があります。西日本から北関東あたりまでの範囲に多く生息していましたが、1978年から2014年までの間に、生息している範囲が2.5倍に広がっているといわれています。福島県では、以前から会津地方に生息していて、近年では阿武隈山系や浜通りでも僅かに生息が確認されています。（環境省 自然環境保全調査2015年）



シカは草や木の葉、木の皮などを食べます。農業や林業に大きな被害をもたらしており、農林水産省の集計では、2022年度のシカによる農業被害額は約65億円と算出されています。この集計によれば、全国の鳥獣による農業被害のうち、42%がシカによるものです。



村内で撮影されたカモシカ
(2024年5月)

【カモシカ】

正式にはニホンカモシカといいます。名前はシカのようなですが、ウシの仲間です。オスもメスもツノがあり、ツノは生え変わりません。ツノは短く、枝分かれしません。中部から東北を中心に生息しており、一時は乱獲されて数が減りました。国の特別天然記念物に指定されています。



カモシカは低木の葉などを食べる事が多く、イモ類の葉を食べられたりする農業被害や、植林された木の葉を食べられる林業被害が発生することもあります。農林水産省の集計では、2022年度のカモシカによる農業被害額は7,300万円と、決して油断はできませんが、シカに比べると被害が小さい動物といえます。



動物を見分けることの意義

一見よく似た動物でも、生態や食性が違えば、被害の出しやすさや被害の内容が異なります。正しく見分けることが、対策の必要性や手段を適切に判断することに繋がります。そのカモシカ、シカかも!?

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員
きょうくろ あつし
京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯館村の主担当となりました。

今こそ一人ひとりが輝いて 村を興さん、村を富まさん

第25回

杉岡 誠 村長の 愛楽故郷味

あいらくふるさとみ



今こそ、お一人お一人が輝きながら、ワンチームとなつて「村」を「興し」、「富ませる」時なのだと感じます。「ワクワク」は新しい意欲を産み出すエッセンスです。

これからの一層、ふるさとの担い手たる皆さまの活躍と健やかさのために、村は力を尽くして参ります。どうぞご期待いただければ幸いです。

夏も真つ只中の葉月。飯館村の夏は今年もワクワクするイベントが目白押しでした。

8月3日だけでも、復元古代炉での玉鋼(たまはがね)の精錬から貴重な「蕨手刀(わらびてとう)」の作成までをわずか1日の中で目の当たりにできる「山の向こうから鐵(てつ)を打つ音が聞こえる」というイベントから始まり、図図倉庫さんでの「常設展示お披露目会」、酷暑でも日が暮れば涼しさを感じる村の気候を活かした「第3回いいたてナイトー駅伝」がありました。

また11日には近づく台風をはねのけての「いいたて夏まつり」、12日は図図倉庫さんでの映画上映「飯館村で生きて、生きて、生きて、を観る会」、18日は「ごきげん対談コンサート&ごきげんマルシェ」、24日は「チンドンバンド練り歩き」、25日は「スーパーカーフエスティバル」など怒涛のイベントラッシュとなりました。

ふるさとの担い手の皆さまの創意工夫によるワクワクする時間をお過ごしただけたのではないのでしょうか？

そして、この夏休み、季節が真逆となるオーストラリアで語学研修を行う「希望の里WAKUWAKU Eツアー」も実施されました。海外での貴重な語学研修・異文化体験を経て、またひとつ成長した子ども達の間から楽しみでなりません。

村民の皆さまは、飯館村民歌「夢大らかに」をご存知のことと思います。私は「村を興さん」「村を富まさん」という歌詞に思い入れがあります。そこに込められた先人の想いを感じます。

この「村」という言葉には村民お一人お一人の存在や生活、人生が内包されています。皆で起き上がり、駆け上がりという強い心意気が込められていると思っています。

■ひとのうごき

誕生おめでとう

HAPPY BIRTHDAY!



赤ちゃんの名前	親の名前	行政区
佐藤 陽依ちゃん	拓さん 絵里さん	飯樋町
鹿山 夏澄ちゃん	真彦さん 紗文さん	深谷

ひとのうごき 令和6年8月1日現在

人口	今月(前月比)	7月1日～31日までの人口動態
●男	2,315人(－3)	転入 6人
●女	2,262人(－4)	転出 8人
計	4,577人(－7)	出生 1人
世帯数	1,800戸(±0)	死亡 6人
		(住民基本台帳人口)

おくやみ

氏名	年齢	行政区
高橋 良子さん	87	小宮
鈴木 久子さん	90	二枚橋・須萱
赤石 澤一さん	91	大久保・外内
荒 紘一さん	83	飯樋町
山崎 辰夫さん	90	比曾
結城 ウタ子さん	83	比曾
北山 サクヨさん	88	飯樋町

ご冥福をお祈り申し上げます



(7月21日から8月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

移住サポートセンター「3ど」×学童保育 子どもオープンデーでワークショップを開催

移住サポートセンター「3ど」(いいたての暮らしをつなぐステーション)は、移住者や移住検討者のみならず、村民の皆さんにも足を運んでいただけるさまざまなイベントを開催しています。

8月8日には、学童保育(つくしんぼハウス)に通う小学生を招いてワークショップを開催。ランチタイムには、出張たこ焼き店の焼きたてたこ焼きも味わいました。



3ど

長正増夫さん(大久保・外内)に講師を務めていただき、茶道のお作法を体験しました。



出汁たつぷり、こだわりのたこ焼きをアツアツで。



福島市在住の画家・佐賀建(たつる)さん(上写真右端)を講師に絵画教室も。

村民広報委員 富士男の

ちょっと寄り道 ⑤

夏が過ぎて!



少しずつ秋の気配です。

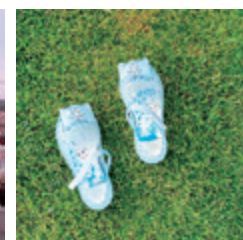
今年の夏には色々なことがありました。日本中、いや世界中を湧き上がらせた、あのオリンピックもその一つです。どの種目にもそれぞれに選手達の努力があり、涙や喜びの声があり、感動のドラマがあって、私達を喜ばせてくれました。

そして猛暑もありました。飯館村でのナイトー駅伝やゲートボールや農作業なども本当に暑かったろうと思います。多分、飯館村にあっても歴史に残るような暑さだったのではないのでしょうか？

それから、この夏の思い出の中に、盆踊りやキャンプファイヤー、家庭での焼き肉などの催しもあったと思います。それぞれに過ぎていく夏の思い出は、本当に宝物です。「思い出は終わった事にしたくなくて! 終わった事になりたくなくて!」いつまでも大事にしていきたいと思います。♪盆去りて 心にひとつ 友の顔♪

そして少しずつ秋の気配です。この秋にしなければならない事もいっぱいあると思います。スポーツや家族や友人達との旅行なども楽しいだろうし、独りで何かを造りあげる事も楽しいだろうと思います。

とにかくまた一つ、この秋に行動して何かに挑戦してみようと想っています。



飯館村ホッププロジェクト 飯館産ホップでビールをつくらう！

東京大学の院生と学部生約20人の有志グループが、上飯樋地区の畑を借りてホップを栽培。8月27日に約8kgを収穫し、福島市のクラフトビール醸造所「イエロービーアワークス」でビールを仕込みました。

震災直後から飯館村の復興支援を続ける東京大学。ホップの近縁種「カラハナソウ」が村内に自生していることを確認していて、冷涼な気候を好むホップを村内で栽培する企画が浮上しました。プロジェクトの代表の1人で大学院2

年の志賀智寛さんは、学部生時代に「東大むら塾」で活動し千葉県富津市でホップの栽培とクラフトビールの商品化を実現しています。経験を活かしてプロジェクトの牽引役を担い、専攻同期の畑上太陽さんと共同代表を務めます。

今回は「カスケード」「マグナム」の2品種を中心に、9品種ほどのホップを栽培。気象や生育状況を定点カメラで観測しながら、毎月村に通って作業を続けてきました。そして迎えた収穫の時。摘みた



他大学の学生らも参加した収穫作業。前の6人がプロジェクトメンバーで最前列右から2人目が志賀さん、3人目が共同代表の畑上さん。



醸造所にて。ホップを計って手でちぎり麦汁に加えます。

ての生ホップを使ってフレッシュホップビールを仕込みます。「ビールをきつかけに村のことを知ってもらえたらうれしいし、何より村の皆さんに楽しんでほしい」。約200Lのビールが10月に完成する予定で、「いいiated秋まつり」に合わせたお披露目を含め販売方法や活用機会を検討しています。「村の皆さんの喜ぶ顔が見たい。一緒にワクワクしたいと思う気持ちが大きいです」と志賀さん。ビールを囲み語らう日を思い描きます。

志賀さんは来年以降もホップの栽培に関わりながら次の代へ活動を引き継ぎたいと考えています。「継続してこそ意味がある。耕作放棄地がホップ畑になり、やがて産業となり、帰村・移住をする人が増えていく、そんな未来につながるポテンシャルがホップにはあると思います」。『飯館ホップ』のビールを大勢で囲んで乾杯できる日が待ち遠しくなります。



〈編集後記〉

私が好きな曲の中に、こんな一節が出てきます。「カエルの声、虫の音、夕方5時の帰り道のサイレンも、あの約束も、忘れないことばかり」この一節を聞くと、飯館村の夏が頭に思い浮かびます。移り行く日々の中で、夕暮れのおい、生き物たちは、変わることなくこの場所において続けてくれます。もうすぐ夏も終わりますが、これからも飯館村の優しい夏が来年、

再来年と続いていくことを願っています。（巻野）

東京大学の皆さんが飯館村で栽培したホップを収穫した朝（上の記事）。隣りで見ていた役場職員が「避難を経験した村でこんな（素敵な）景色が見られるなんて」と笑みを浮かべてつぶやきました。飯館ホップのビールもすぐくすくす楽しみですが、関わる皆さんの村への想いがうれし過ぎて、私も収穫風景をそっと胸に刻みました。（星）



防災情報配信中
ぜひご活用を！

↑お友達登録はこちらから

- 防災情報も
村からの
お知らせなどが
すぐ分かる
イベントも
- 気象警報・注意報や緊急性の高い防災情報をリアルタイムで配信。頻発する災害に情報を役立てよう！
- 発行日にアップされる広報いいたてやお知らせ版を手軽にチェック！
- 開催間近のイベント情報をリマインドするよ！

問 村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613